

掲載号：秋病薬報 Vol.13 No.2(36)

発行月：平成 20 年 12 月



薬剤部長 佐々木 吉幸

秋田赤十字病院は、大正 3 年 7 月、東北・北海道では初めての赤十字病院として開設されました。その後新築移転を経て平成 10 年 7 月上北手猿田字苗代沢地区に移設され、現在の病院となっています。快晴の日には病棟のデイルームなどから鳥海山を望む事ができ、また夕日が沈んでゆく姿は絶景です。



現在の稼働病床数は 496 床、診療科は内科、消化器科、精神科、神経内科、救急部等計 21 科となっています。当院の特徴として、秋田県唯一の総合周産期母子医療センター、救命救急センター、神経病センターを備えており、また今年度からは医療費の削減が期待されている診療群別包括支払制度 (DPC) 方式を導入しました。さらに、病院機能評価の認定を受け、地域がん診療連携拠点病院にも指定されています。また、当院は赤十字という特徴から、災害地への医療班派遣など災害救護を積極的に行っています。薬剤師も医療班の一員として

救護訓練に参加しており、先に発生した岩手・宮城内陸地震においても現地に派遣されました。

薬剤部は薬剤師 15 名、薬剤助手 4 名の計 19 名で調剤・薬品管理・製剤・薬剤管理指導等を行っています。その他にも、薬剤師が院内の NST や ICT の構成メンバーとして積極的に活動していることはもちろん、がん化学療法のレジメン審査等を行うがん化学療法評価委員会や緩和ケア委員会などにも、薬剤師が所属しています。薬剤管理指導業務においては、服薬指導支援システム (PICS) を用いて服薬指導内容を記録しており、薬剤師間での患者情報の引き継ぎもスムーズに行われています。また、平成 18 年電子カルテの導入以降、患者情報が一元化されたことで処方歴、検査値、病歴等の確認が容易になり、職員間での情報の共有やコミュニケーションも円滑になりました。

病院理念である人道・博愛の赤十字精神に基づき、患者の皆様が「来て安心・受けて満足・確かな信頼」を得られる心の通った病院を目指し、日々頑張っています。

(文責 今村 亘)

